

「帰ってきてほしい」「職場復帰できる会社にしたい」という強い気持ち。

株式会社 山岸製作所

■〒370-0081 群馬県高崎市浜川町590-23(浜川工業団地内)

■TEL.027-360-4100(代)

■<http://www.yamagishi-ss.com/>

●常務取締役 岡田 美智子さん



Q 産業カウンセラーの資格をお持ちだとお聞きしました。

A 会社でも家庭においてもコミュニケーションが円滑にできる術が知りたくて、キャリアコンサルタントそして産業カウンセラーの勉強をしました。コミュニケーションは大事ですね。社員同士のトラブルで相談されることがあります。何が原因でそういう状況になったかを「傾聴」をもとに、その時の自分の気持ちをホワイトボードに書き出してみると、なにげなく言った「ひとこと」が原因だったと気づき和解できた、ということがありました。また社員が名付けた「つぶやきボックス」という箱があります。それはカウンセラーとしての私と社員の連絡箱です。今まで「こんなことで悩んでいるので聴いてほしい」とか「こういう状況が起きているので検討してほしい」等の手紙がありました。「トイレのスリッパを取り換えてほしい」という手紙も入っていました。勉強したことが社員にとって、少しでも楽しく働けるよう役立てば幸いと奮闘しています。そして、私には難題と思える事例は、産業カウンセラー協会に相談できることも心強いです。

Q 産休・育休について、会社の取り組みを教えてください。

A 私たちの時代は結婚と同時に退職することが多かったので、産休や育

休の制度は使いづらかったですね。私の職場では、出産前に退職するのが当然と思っていました。現在の当社では、キャリアを積んだ社員が育児の為に退職するのは残念なので、可能な限り産休・育休をとって職場復帰することを奨励しています。育休の間、皆でフォローしその人のポジションを空けていきますので、復帰当日から元の職場に戻れます。社員たちの「帰ってきてほしい」「職場復帰できる会社になりたい」という気持ちが強いのではないのでしょうか。当社での女性の活躍は素晴らしいと感じています。

Q 学生時代に持っていた、キャリアに対する考えを教えてください。

A 私の実家は自営業で母親が忙しく働いていたので寂しかったのでしょうか。若いときは専業主婦になろうと思っていましたね。なんでも手作りして子どもを育てたいと思っていました。それが母親のあとを継いで仕事をする事になりました。娘が小学生の時に「私と会社とどっちが大切？」と言われた時は辛かったですよ。ある女性経営者の会でその当時のことを話したら、同じ悩みを持っていた会員から「娘さん（その時は大学生）は今どういう気持ちでいるのか知りたいの聞いてほしい」と言われ、恐る恐る聞いたところ…「尊敬している」「仕事をしているお母さんはすごく輝いていた」と。「お母さんがPTAで学

校に来て輝いて活動している姿を見たときは鼻が高かった」「でも寂しかった」という返事にほろっとなりましたね。今は娘も二人のお母さんになって頑張っています。近々仕事をしたいと言っています。女性が仕事を持って、キャリアを積むということは大切ではないでしょうか。

学生の声

インタビューさせていただいた岡田美智子さんの、「社長が変われば会社も変わる」という言葉がとても印象的でした。山岸製作所さんでは、岡田さんや社長さん自らが産業カウンセラーについて学んで会社を良くしていこうと努力されていました。このようなトップの前向きな姿勢が、働きやすい会社の雰囲気を作り上げているのだと感じました。

